

4. 施策

基本的な考え方や方針に基づき、短期（5年間：2021年～2025年）、中期（15年間：2026年～2040年頃）、長期（30年間：2040年頃～2070年頃）での実施を目指す施策を次の通り設定します。

4.1. 短期施策（5年間：2021年～2025年）

短期施策1. おもてなし拠点の整備『丸岡観光情報センター（仮称）』の新設

歴史の継承・未来の価値創造のための施設として『丸岡観光情報センター（仮称）』を霞ヶ城公園の南東に整備します。

天守と一体となって丸岡城を世界に発信していく拠点とし、年間100万人の来場者数を目指していきます。

設計コンセプト

- 天守と現代建築の調和、天守が美しく見える佇まい、天守への眺望・天守からの眺望といった天守との強い関係性を表現できる最適な環境と空間
 - ・ 天守と豊原寺、白山を結ぶ軸線上に歴史的な文脈を想起するものとしします。
 - ・ 天守から豊原寺方面を望む際に見下ろす屋根面が景観に相応しいものとしします。
 - ・ 霞ヶ城公園内外から視認性のよいものとしながら天守や城山への眺望を阻害せずに引立てるものとしします。
 - ・ 地場産業である越前織を模した屋根によって、年間を通じた快適な環境を確保します。
- 多様な機能を集約するのではなく、周辺地域へと良い効果をもたらすための施設



4-1 『丸岡観光情報センター（仮称）』イメージ

ターゲットと活用イメージ

- 近隣地域のみならず生活圏内の人々の日常的な活用
- 市民が丸岡城に親しみを持ち、城周辺を楽しむための拠点的活用
- 市民が遠方から来る知人等をもてなすときに活用
- 全国のお城ファン、福井県内や北陸を周遊する来訪者が、必ず立ち寄る観光拠点活用

施設概要

生活基盤の中核、観光の拠点となり、歴史・風土に彩られた場所に相応しく、未来を見据えた建築、外構として以下の仕様を目指します。

- 内堀五角形内について、そのあるべき姿の検討を将来可能とするために、耐用年数を長期施策が設定している 50 年後として設定
- 多様な社会に適すように、様々な人達の活動や体験が展開される仕掛けづくり
- 柔軟性を持たせた空間構成によって、時代に応じた空間の使い方を可能とする可変性
- 空調設備の更新が容易、かつ環境負荷の少ない素材を使用

短期施策 2. 内堀五角形の整備

(公共施設の移転・統廃合・再配置)

城山および霞ヶ城公園平地部の公共施設の機能を移転・統廃合・再配置します。これらの建物を除却することで天守への眺望を確保し、内堀五角形内の魅力を向上させます。

対象とする既存公共施設（建造物）

- 城山： 霞ヶ城公園管理事務所（チケット売り場）、
霞ヶ城公園管理事務所前トイレ
- 霞ヶ城公園：丸岡観光情報センター、歴史民俗資料館、
丸岡城駐車場トイレ、四阿、倉庫

(霞ヶ城公園の再整備)

霞ヶ城公園平地部分を再整備します。水盤を設け、かつて一番広大な堀跡地であったことが想像できる水辺広場空間をつくり、水盤による奥行きを感じながら天守を眺める楽しさを覚えるような、空間の履歴を感じられる修景を行います。

また、天守への眺望を確保しながらも、春は桜、夏は緑葉、秋は紅葉、冬は雪など一年を通した変化を楽しめる霞ヶ城公園全体の植生について検討し整備していきます。



4-2 霞ヶ城公園整備イメージ

(遊歩道および園路の整備)

遊歩道および園路を整備します。一筆啓上 日本一短い手紙の館北駐車場、ふれあい広場、霞ヶ城公園、城山南側、お天守前広場の動線をつくり、周遊性の向上を図ります。園路の植樹は天守への眺望に影響のない箇所です桜とし、「日本さくら名所100選」を維持していきます。

遊歩道の整備箇所

- ふれあい広場東側に遊歩道を整備
- 霞ヶ城公園南側道路（市道南霞 9 号線）の廃道化と拡幅のために用地買収を実施し、道路から拡大した霞ヶ城公園の園路として整備。園路はベビーカーや車椅子がゆったりとすれ違うことのできる道幅を確保

(発掘調査と遺構展示)

観光情報センター等撤去の際に霞ヶ城公園平地部の試掘、発掘を進め、搦手門周辺の位置の確認を行い、遺構展示、部分再現を検討します。

うちのうねぐちもん あかずのもん (内長畝口門、不明門の復原展示)

現在、坂井市内にあって、詳細がある程度明らかになっている丸岡城の門遺構は内長畝口門、不明門のみとなっています。これらは大切にすべき歴史文化資源であると言えます。

うちのうねぐちもん 内長畝口門

部材が残されており、市が保管している内長畝口門を復原展示します。場所は、ふれあい広場北東の隅で計画、整備を行い、来訪者を出迎える起点の一つとして位置付けます。

あかずのもん
不明門

所有者のご尽力により唯一の現存城門が維持されています。所有者のご理解を得た上で、短期で市が取得を目指し、歴史文化遺産としての復原展示について検討します。中期で霞ヶ城公園内等公有地への復原展示を目指します。



4-3 移築された不明門
(昭和 15 年頃撮影)¹⁵

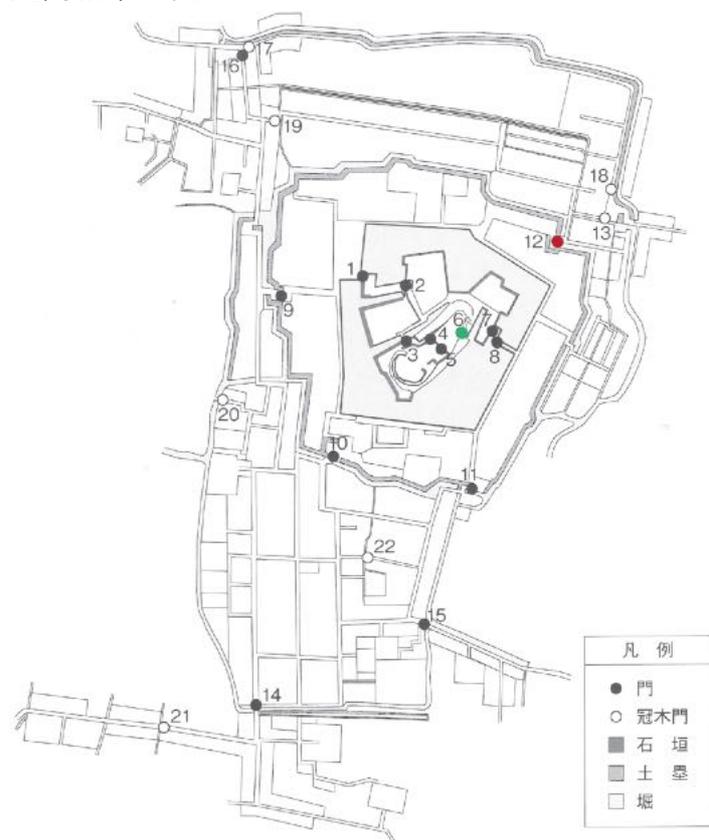


4-4 現在の不明門
(2019 年撮影)



4-5 城門復原のイメージ¹⁶

丸岡城下の門



門番号	門名	一・二階の区別
1	追手門	平屋の門
2	中門(西門)	二重二階門
3	石橋門	平屋の門
4	豊原門	平屋の門
5	埋門	二階門
6	不明門	二重二階門
7	裏門(東門)	平屋の門
8	裏門(東門)	平屋の門
9	室町口門	平屋の門
10	神明口	平屋の門
11	門里丸岡口門	平屋の門
12	内長畝口門	平屋の門
13	外長畝口門	平屋の門
14	福井口門	平屋の門
15	竹田口門	平屋の門
16	金津口門	平屋の門
17	アラ町口門	冠木門
18	(松原通)	冠木門・
19	(小人町)	冠木門
20	(門前町籠屋前)	冠木門
21	(西瓜屋町入口)	冠木門
22	(弓町入口)	冠木門

4-6 丸岡城下の門位置と名称¹⁷

¹⁵ 出典：『丸岡城学術調査資料集第1集』竹原写真（2020年，坂井市教育委員会）

¹⁶ 撮影・写真提供：越澤明氏 安積門（旧大垣城鉄門）の復原展示（岐阜県各務原市鵜沼西町）

¹⁷ 出典：『越前丸岡城の門遺構調査報告書』（2019年9月，若越建築文化研究所）p6 図1-1「丸岡城下の門位置と名称」表1-1「丸岡城下の門位置と名称」 赤と緑部分を彩色

(天守が見えるよう城山樹木の適切な管理)

天守が周囲から見えることが大切だと考えます。城山の樹木伐採の方針をつくり、適切な管理を行い、全方向から天守への眺望を確保します。

城山樹木により天守が隠れている



4-7 お天守前広場から¹⁸



4-8 霞ヶ城公園から



4-9 内堀南側から

(城山の整備)

文化財保存活用地域計画と本整備基本計画の連携を図り、城山の保全整備を計画・実施していきます。また、現存木造天守を災害や犯罪から守るために措置を講じる必要があります。天守周辺および城山の防犯・防災・防火対策を強化します。

また、城山内の現在の舗装された登城路は、以前の耐震改修工事用道路として新設された道であるため、撤去・改修する方向で検討します。

(夜間の景観創出)

既存の天守のライトアップやプロジェクションマッピングの取り組みに加え、水盤整備に伴う『丸岡観光情報センター（仮称）』の夜間営業の可能性や遊歩道の整備により、夜の丸岡城を楽しむ環境が整います。水盤周辺のライトアップ、『丸岡観光情報センター（仮称）』の照明、園路や遊歩道の照明と天守のライトアップが一体となった夜間景観を創出します。

(お天守前広場の賑わい創出)

城小屋マルコ周辺の空き家や空き地を活用したまちづくり団体や民間による拠点づくりを促し、城山南側の周遊性向上、お天守前広場の賑わいの向上を目指します。

(民有地の活用)

空き家や空き地等を中心に、市が取得を検討します。公有地後は芝生化し、余白空間として周遊の中継点やイベントなどで活用していきます。

¹⁸ 撮影・写真提供：越澤明氏（2018年、国土交通省近畿地方整備局の視察）

短期施策3. 三ノ丸北東エリアの整備「歴史文化観光ゾーン」

三ノ丸北東エリアを「歴史文化観光ゾーン」として位置付け、歴史博物館新設を含む構想、計画策定に着手します。このエリアは公共施設が集積しているため、図書館機能の維持、霞幼保園の建て替え・移転の検討と、霞ヶ城公園（四季の森）や定時制高校跡地（通称：城東グラウンド）等の一体的な再整備を検討していきます。



4-10 歴史文化観光ゾーンと既存公共施設



4-11 歴史博物館のイメージ
(飛騨高山まちの博物館)

短期施策4. 城下町風情が感じられる街並み整備

(高度地区の指定)

城下町風情のある景観づくりのため、建築物の高さをある程度低くしていくことが必要であると考え、高層建築物の建設を防ぐためにも、高度地区の指定を検討します。内堀五角形内および内堀五角形外周を低層建築物に限るエリアとして高さ10m以下、さらに理解が得られれば、その周辺は高層建築物を避けるエリアに指定する案で検討します。



4-12 城周辺高度地区指定案

(電柱地中化計画)

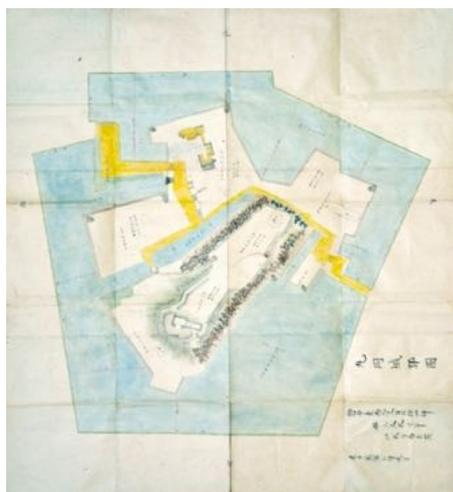
景観づくりのため、城周辺の電柱地中化計画の策定を検討します。

(住宅等の修景)

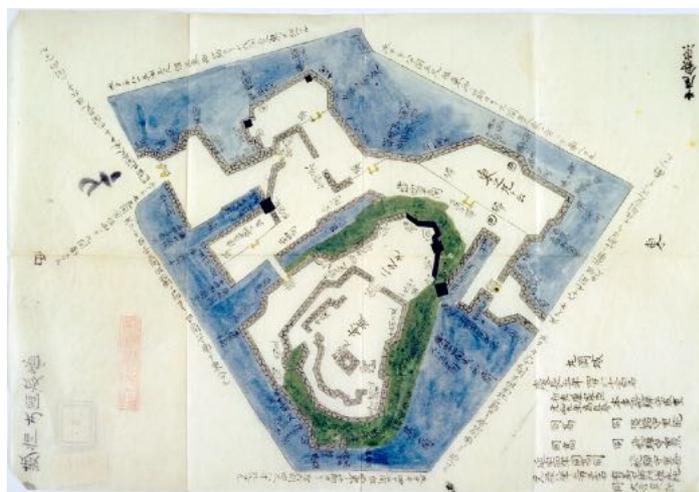
城下町の雰囲気を高めていくために、従来より実施している丸岡城周辺景観まちづくり事業を継続し、城周辺地区特定景観計画区域内の建物修景を促進します。

短期施策 5. 文化財の継承に繋がる丸岡城魅力向上の取り組み**(城絵図の複写収集)**

調査発掘の参考資料および『丸岡観光情報センター（仮称）』での展示に向け、明治初期の陸軍省城絵図など丸岡城の城絵図の複写収集を実施します。



4-13 陸軍省城絵図「丸岡城郭図」

4-14 池田家文庫「越前丸岡城図」¹⁹**(歴史的価値を伝える様々な手法)**

丸岡城の特徴、丸岡藩の歴史、これまでの調査で明らかとなった丸岡城の歴史的価値を『丸岡観光情報センター（仮称）』で映像展示し、これまでのパネル展示から映像展示への転換を図ります。

短期施策 6. まちなかの小さな拠点育成と周遊性の強化**(拠点育成事業)**

短期で賑わいを創出していくエリア（お天守前広場～丸岡バスターミナル：p41-42「4.3. 丸岡城周辺整備基本計画〔短期整備方針図〕」参照）を中心に、住民や来訪者が利用できる拠点育成を支援し、民間による観光まちづくりの取り組みを育てていきます。例えば、空き家等を活用したそば屋、宿泊施設、飲食物販施設、工房、コミュニティスペース等が考えられます。あわせて、空き家所有者と活用希望者を繋ぐ取り組みが求められます。

¹⁹ 出典：池田家文庫「越前丸岡城図」岡山大学附属図書館蔵

(周遊性を強化する様々な取り組み)

新設する遊歩道や周遊性を強化するルート（p41-42「4.3. 丸岡城周辺整備基本計画〔短期整備方針図〕」参照）で、周遊したくなる仕掛けづくりに取り組みます。遊歩道には桜の植樹が、重点動線では城下町らしいサインやベンチ、灯りなどが考えられます。また、短期の内堀五角形内整備にあわせバス停留所を見直し、周遊性と利便性両方から最適な停留所を再構築します。

美装化道路



4-15 新町通り (石畳)



4-16 城のまちコミュニティーセンター前から天守方面 (石畳)



4-17 法栄寺周辺 (カラー舗装)

短期施策 7. 城郭周辺エリアの歴史文化資源や観光資源との連携と活用

豊原寺跡周辺、歴代藩主の菩提寺、本光院（本多家）、白道寺（有馬家）、高岳寺（有馬家）、台雲寺（有馬家）や國神社、丸岡藩砲台跡（国史跡）、三国湊（滝谷）といった旧丸岡藩の飛び地、受法寺、久保田酒造、称念寺など、丸岡城、丸岡藩と関連のある歴史文化資源との繋がりを強化していく取り組みを、市民と協働して進めていきます。

城郭周辺および広域の関連する歴史文化資源



4-18 豊原寺跡



4-19 豊原寺跡 (白山神社跡)



4-20 本光院



4-21 白道寺



4-22 高岳寺



4-23 台雲寺



4-24 國神社



4-25 受法寺



4-26 久保田酒造



4-27 称念寺

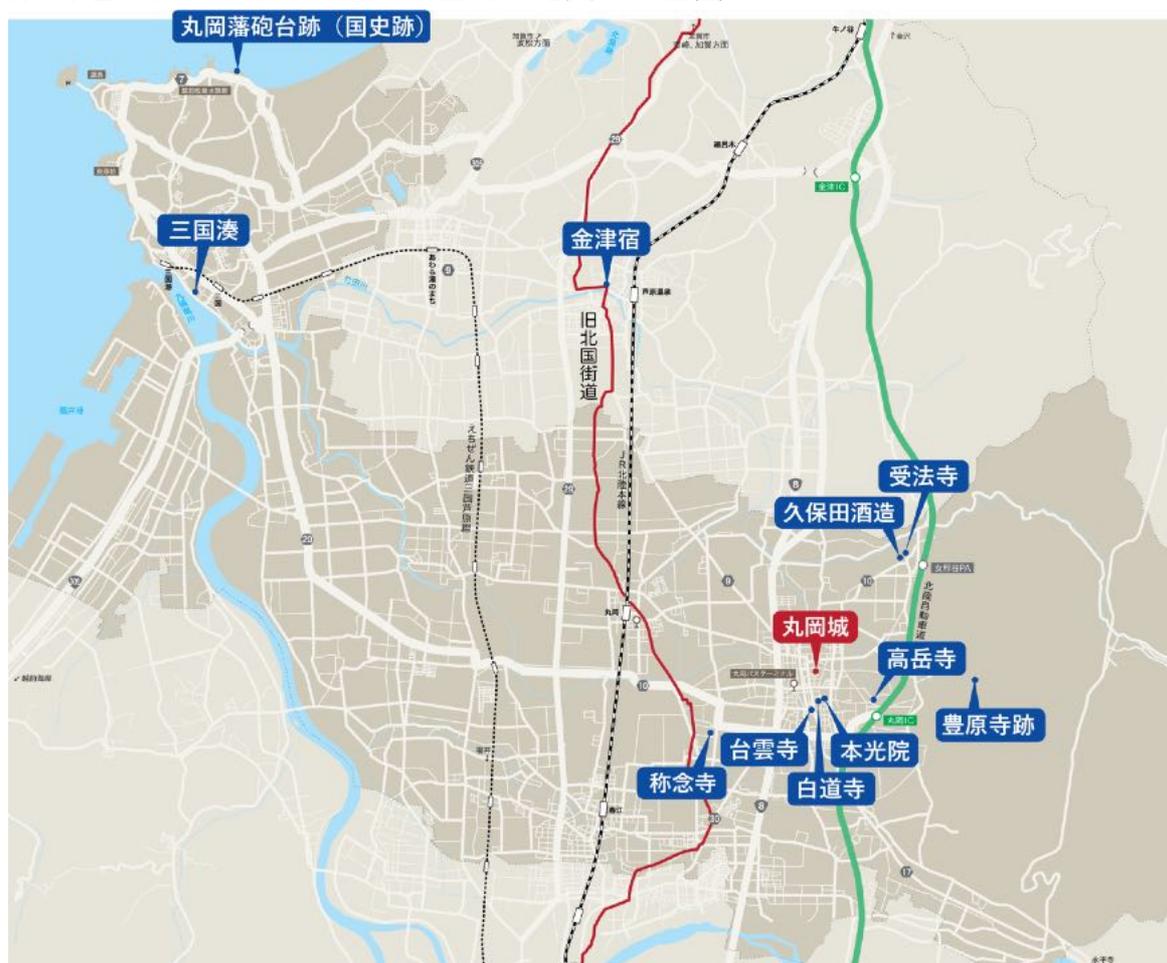


4-28 丸岡藩砲台跡



4-29 三国湊 (滝谷)²⁰

城郭周辺および広域の関連する歴史文化資源位置図



4-30 城郭周辺および広域の関連する歴史文化資源位置図²¹

²⁰ 写真提供：平野写真館

²¹ 「城小屋マルコ版 丸岡往来」（2020年、市民の会）を一部編集。下地地図は「坂井市観光ガイド TRIP さかい」（一般社団法人坂井市観光連盟）「TRIP さかい【広域地図】」を用いたもの

4.2. 喫緊の課題

国内外の文化財の消失に鑑みて、築 400 年の木造天守である丸岡城を火災、失火から守ることが極めて重要です。

令和 3 年 2 月 26 日（金）中間報告として、緊急の課題についても市長に提出

喫緊の課題

1. 防犯、防火の対策が緊急に必要である。
 - 夜間立ち入り防止のフェンス設置。
 - 監視カメラの設置と撮影データ保存。
 - 防火設備は十分か？ 停電時に消火できる必要あり。放水銃、防火水槽は十分か？ 一旦燃えてしまうと、木造復元しても重要文化財にはならない。
2. 周辺全体の測量が必要。
3. 明治初期の地図の複写。

追加課題

- 現在丸岡城周辺について管理が複数の課にまたがっているため、管理の明確化が必要。特に、丸岡観光情報センターと駐車場については、観光交流課で一体的な管理が今後必要。
- インフラ（上下水道・ガス・電気等）の効率的な管理と改修が必要。
- 桜を含む植栽については、城山・公園内・広場・街路樹の一体管理が必要。

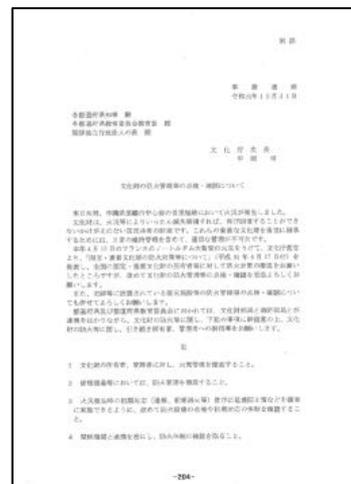
国（国交省、消防庁、文化庁）の防火注意喚起の文書



4-31 国交省通達文書
令和元年 10 月 31 日

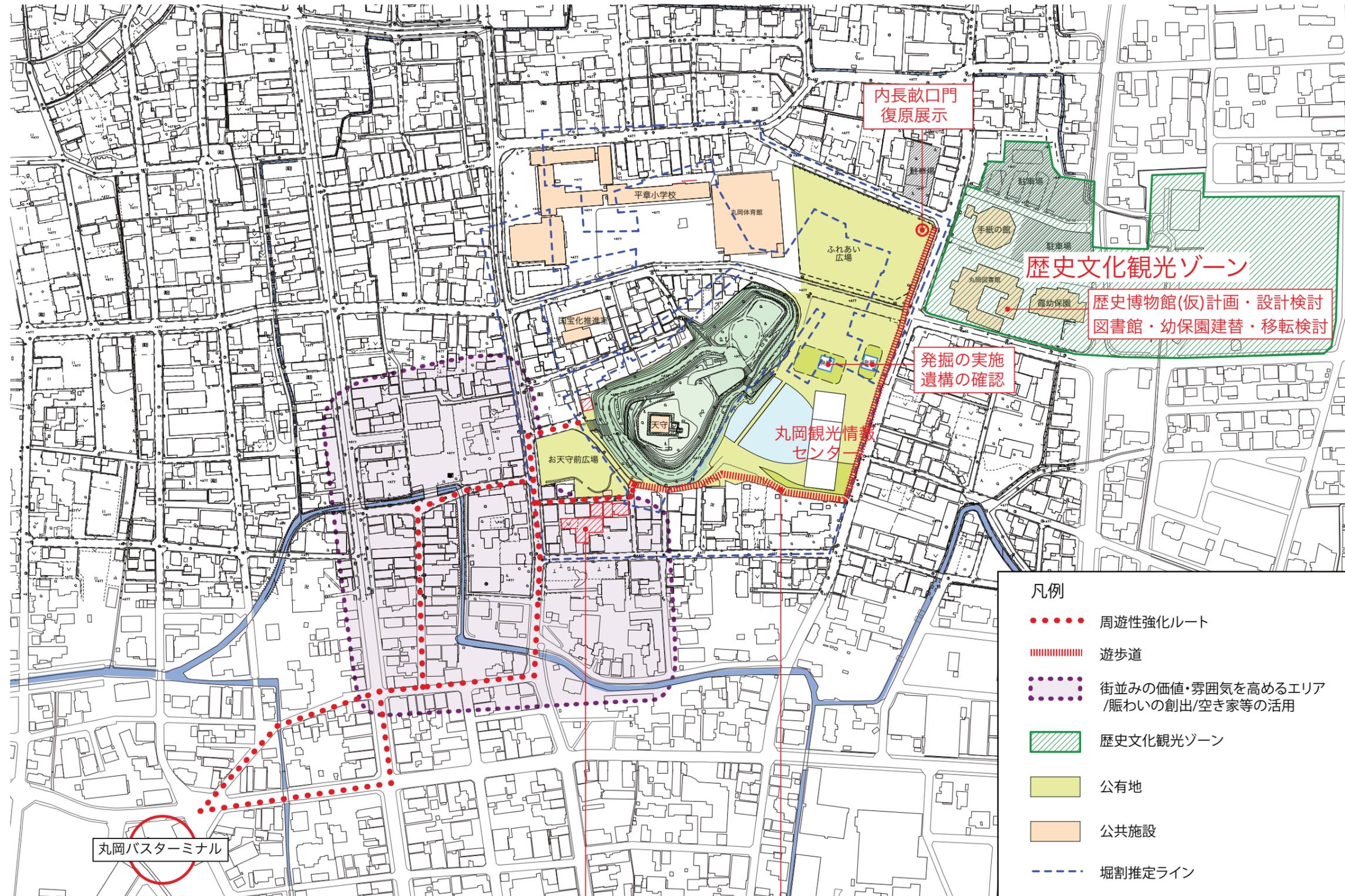


4-32 消防庁通達文書
平成 21 年 3 月 23 日



4-33 文化庁通達文書
令和元年 10 月 31 日

4.3. 丸岡城周辺整備基本計画〔短期方針図〕



凡例

- 周遊性強化ルート
- ||||| 遊歩道
- 街並みの価値・雰囲気をもつエリア / 賑わいの創出/空き家等の活用
- ▨ 歴史文化観光ゾーン
- 公有地
- 公共施設
- - - 堀割推定ライン

お天守前広場南側の
空き家、空き地の活用

遊歩道を整備、
夜間の景観演出



4-34 短期方針図

4.4. 中期施策（15年間：2026年～2040年頃）

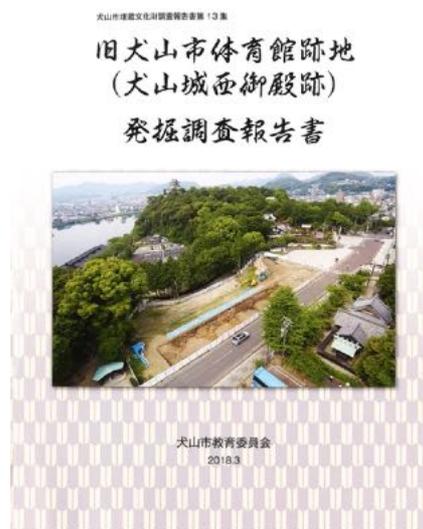
中期施策1. 三ノ丸北東エリアの整備「歴史文化観光ゾーン」

短期での検討を踏まえ、歴史博物館新設を含む歴史文化観光ゾーンの整備とその完成を目指します。

中期施策2. 内堀五角形の整備

（体育館の移転）

体育館機能を移転し、体育館を撤去します。跡地とふれあい広場を発掘対象地とし調査を進め、目指す将来像に向けた整備計画に繋がります。



4-35 発掘調査報告書（参考イメージ）²²

（公有地の適切な活用）

丸岡城国宝化推進室の建物を撤去し、発掘調査を進めていきます。跡地は遺構に配慮し余白空間として活用した後に、長期施策へと繋がっていきます。

（丸岡城の門遺構）

取得した不明門の保護とその価値を広く伝えていくために、霞ヶ城公園内など公有地での復原展示を目指します。

搦手門周辺は、短期での調査・発掘の成果を踏まえ、搦手口の再現を目指し、長期での搦手門再現へと繋がっていきます。

²² 出典：『旧犬山市体育館跡地（犬山城西御殿跡）発掘調査報告書』（2018年、犬山市教育委員会）表紙

(城山の整備)

城山南側のかつての井戸周辺を中心に、発掘調査、遺構の確認を進めていきます。また、城山内の現在の舗装された登城路については、短期の検討に基づき、再整備を進めていきます。

(内堀五角形遊歩道の整備)

周遊ルートを伸長し、内堀五角形外周の賑わい創出へと繋げていくために、内堀五角形を一周できる外周遊歩道を整備します。また、外周遊歩道のライトアップを行い、天守や霞ヶ城公園とあわせて内堀五角形を演出します。

(お天守前広場の賑わい創出)

引き続き、城小屋マルコ周辺の空き家や空き地を活用したまちづくり団体や民間による拠点づくりを促し、城山南側の周遊性向上、お天守前広場の賑わい創出を強化していきます。

(民有地の活用)

引き続き、空き家、空き地、建て替え時期の建物など、状況や機会により、市が取得を検討します。公有地後は芝生化し、余白空間として周遊の中継点やイベントなどで活用していきます。

中期施策3. 城下町風情が感じられる街並み整備

引き続き、城周辺地区特定景観計画区域内の建物修景を促進します。また、電柱地中化計画に基づき、その整備に着手していきます。

中期施策4. 丸岡城がもつ価値の再認識と継承

丸岡城がもつ価値の再認識と継承を実施していきます。市民の協力のもと、文書などの資料収集と、歴史の考証に役立てていきます。検証結果は展示等を行い、市民活用にも活かしていきます。

中期施策5. まちなか・まちづくりの拠点づくり

市民が主体となる、地域の課題を解決する組織（多様な主体による協働する組織）の拠点設置や運営を支援し、関係団体や大学、小・中・高校等と連携し、まちづくりを加速させていきます。

中期施策 6. 周遊性の強化

中期では外堀に着目した整備を実施していきます。特に外堀南側の修景や遊歩道、案内板やベンチ設置などの環境整備を実施し、城下町の雰囲気高めながら周遊範囲を拡大していきます。

また、ふれあい広場やお天守前広場では、キッチンカーの招聘やマルシェなどのイベントを開催し、賑わいづくりに注力していきます。このような取り組みを積み重ね、内堀五角形外周沿いの価値を高め、テナント誘致に繋がるような民間利用を促進していきます。

外堀



4-36 南 (タブノキ)



4-37 南 (國神社付近)



4-38 南 (まちかど公園付近)



4-39 西 (城のまちコミュニティセンター)



4-40 南西の勾角



4-41 南東の勾角付近

城郭のポイントに設置された標柱



4-42 南三ノ丸と平章館跡



4-43 標柱の現在地がわかる城郭図 (平章館跡)

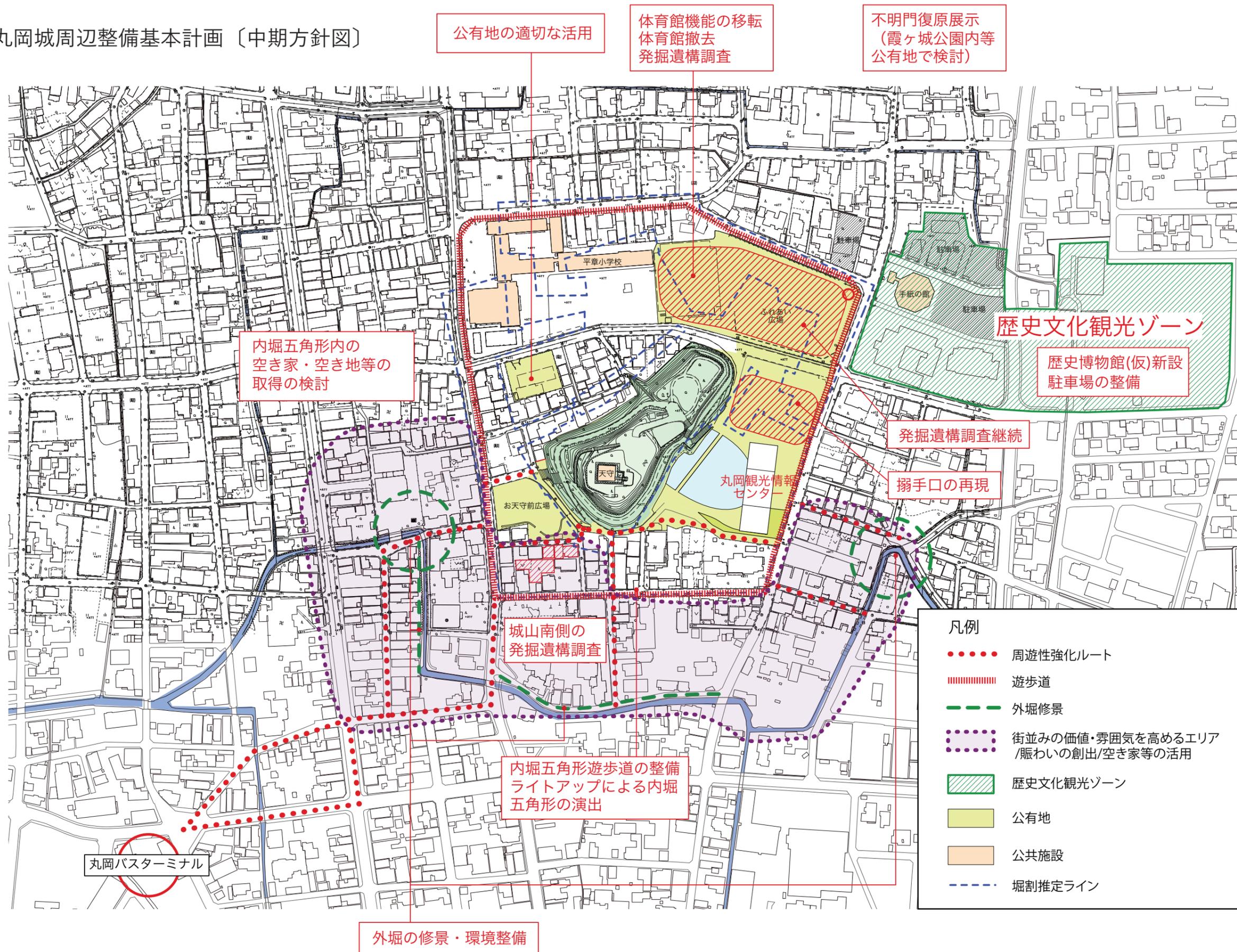


4-44 東三ノ丸

中期施策7. 城郭周辺エリアの歴史文化資源や観光資源との連携と活用

引き続き、豊原寺跡周辺、歴代藩主の菩提寺、本光院（本多家）、白道寺（有馬家）、高岳寺（有馬家）、台雲寺（有馬家）や國神神社、丸岡藩砲台跡（国史跡）、三国湊（滝谷）といった旧丸岡藩の飛び地、受法寺、久保田酒造、称念寺など、丸岡城、丸岡藩と関連のある歴史文化資源との繋がりを強化していく取り組みを、市民と協働して進めていきます。

4.5. 丸岡城周辺整備基本計画〔中期方針図〕

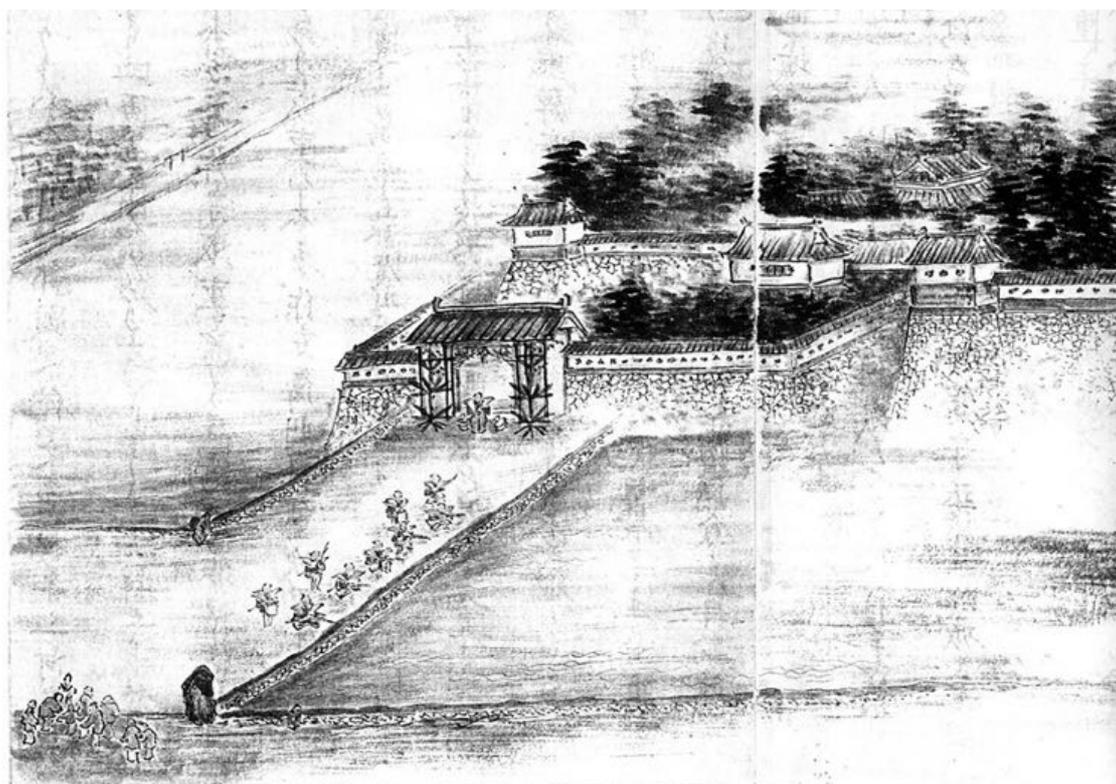


4.6. 長期施策（30 年間：2040 年頃～2070 年頃）

長期施策 1. 内堀五角形の整備

（二ノ丸御殿の復元、城門、櫓の再現）

二ノ丸御殿の復元、搦手門、追手門と登城歩道、隅櫓の再現整備を目指します。



4-46 吉祥の図（有馬家時代に、毎年元旦に実施された祝砲の儀式（山田介堂による写し））²³

（平章小学校と追手門再現）

平章小学校については、今後少子高齢化が進み坂井市内の小学校再編成等の時期を迎えるなど、将来的に条件が揃った場合、内堀五角形の外へ移転を検討します。

移転した場合の跡地は、追手門再現に向け発掘調査を実施し、計画、整備を進めます。

（東西道路の廃道）

内堀五角形内の東西道路（市道室町城東線）は、平章小学校が移転した場合、廃道化、代替道路の計画、整備を進めます。

²³ 表門（追手門）が描かれた絵として史料的价值がある。このような絵の存在は現時点ではこれが唯一。山田介堂（1869～1924）は著名な画家で、丸岡藩の上級武士の家に生まれる。本図は江戸時代作成の絵を写した可能性がある（文責 越澤明）。出典：水崎亮博氏提供（宮本久著『城下町丸岡の昔と今』2007年（平成19年），私家版）

(霞ヶ城公園の再整備)

『丸岡観光情報センター（仮称）』の内堀五角形の外への移転と、内堀南側の堀の部分再現を検討します。堀の部分再現については、親水公園としての再整備を検討します。

(城山の整備)

城山外周を一周できるような遊歩道を新たに整備します。

(お天守前広場の賑わい創出)

城小屋マルコ周辺の空き家や空き地の利活用による賑わいを内堀五角形の外周に移動させていきます。跡地はお天守前広場、内堀南側と一体で調査、計画を進め、堀割の再現整備を実施していきます。

(民有地の活用)

引き続き、空き家、空き地、建て替え時期の建物など、状況や機会により、市が取得を検討します。公有地後は芝生化し、余白空間として周遊の中継点やイベントなどで活用する他、余白空間が集まりある程度の広さとなった場所は、堀割再現等の実現に向けた調査に移行していきます。

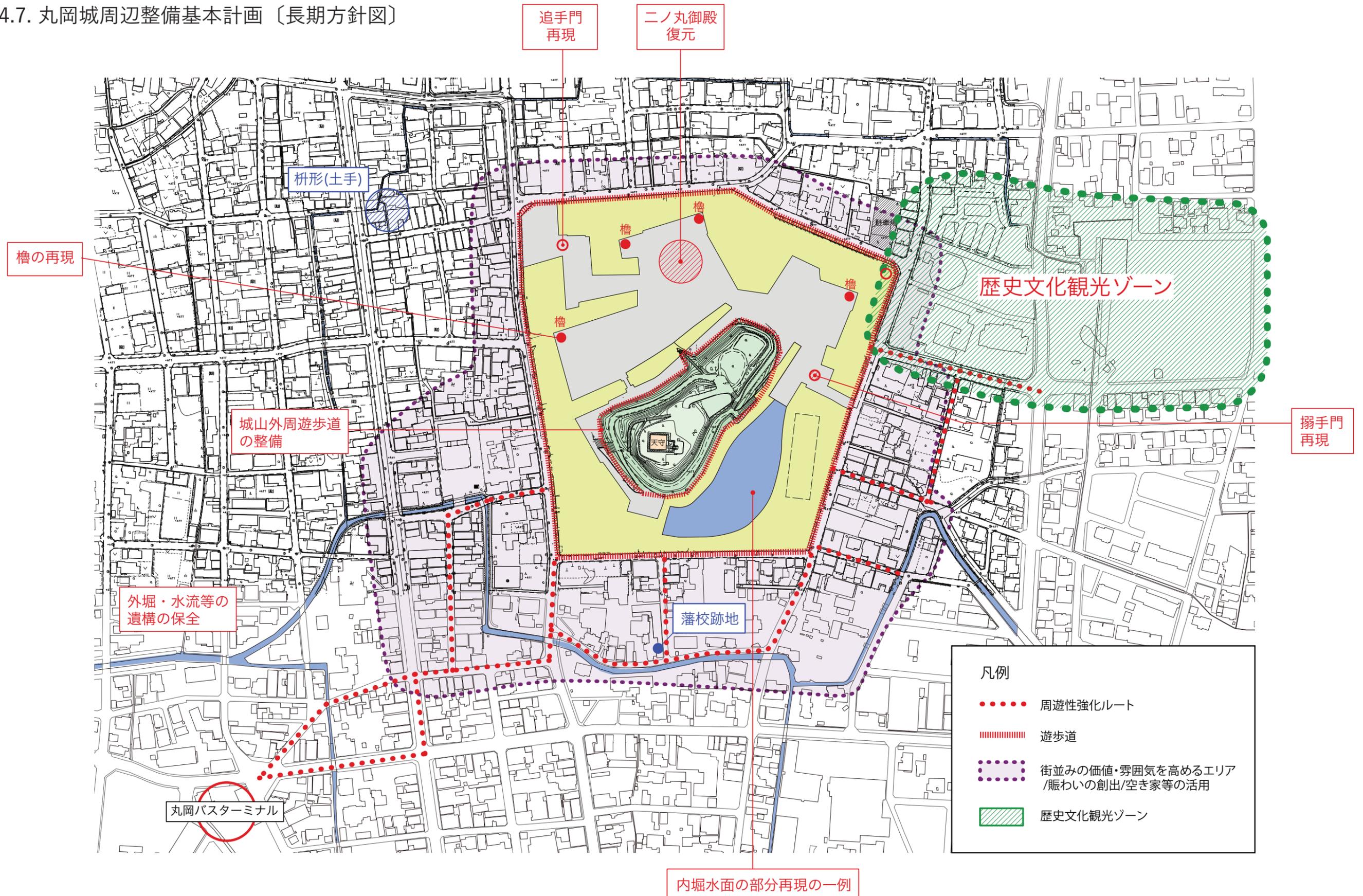
(堀割の再現)

水堀、空堀を組み合わせ、内堀五角形内の堀割を再現していきます。

長期施策 2. 城下町の構造強化整備

外堀西側にあったと推定される升形（土手）付近や、城下の主要とされる城門の調査と、可能であれば部分再現を検討するなど、城郭を特徴づける整備を実施します。

4.7. 丸岡城周辺整備基本計画〔長期方針図〕



4-47 長期方針図

5. 策定後の展開

5.1. 施策スケジュール



丸岡城天守と内堀五角形を中心とした、豊かな暮らしと魅力ある観光が両立した地域

5-1 施策スケジュール

■ ハード面 ■ ソフト面 ■ ハード・ソフト面

5.2. 推進体制

丸岡城周辺整備基本計画策定委員会の後発となる委員会等を設置し、整備基本計画施策実行に関する共有、議論、諮問を定期的を実施します。

また、本整備基本計画の中長期施策内容について検討を重ね、策定時の指針から計画の具体化へと進める議論を継続的に実施していきます。

5.3. 市民等との共創・協働による推進

本整備基本計画で実施する施策は、丸岡城・城下町の価値を高めながら、誇りを持って次世代に継いでいくための取り組みであり、すなわち市民自らが城周辺の賑わいを創出し楽しむこと、来訪者との交流を楽しむことです。

そのために丸岡城下に市民と情報が集まり、多様な活動が生まれ、より良くしていくための議論と課題解決のための行動が促進されるよう、市民と市が共創・協働して観光まちづくりを推進していきます。

整備の過程で現れてくる課題を市民との協議で共有し解決していくことや、まちづくり団体の活動の広がりへの支援、観光まちづくりに参加したい市民を増やしていく取り組みや仕組みづくりを行っていきます。

5.4. 検証・評価

50年間を通して、その時点での現状に沿った整備を着実に進めていけるよう、施策事業の進捗状況や実績の公開、委員会等で事業の検証と評価、施策の見直しと軌道修正を毎年実施していきます。

おわりに

委員長の私はこれまで全国各地で、都市計画や歴史資産に関する基本計画の策定に関わってきました。「丸岡城周辺整備基本計画」は、全国を見渡しても、大変立派な計画・政策となりました。これは、ひとえに、委員各位の丸岡城下町に対する誇りと郷土愛、行政事務局の精力的な取り組みの結果です。



私と坂井市・丸岡城との関わりは、3年前が最初です。国土交通省近畿地方整備局（以下、近畿地整と略す）の依頼で一緒に坂井市を訪問しました。近畿地整からの相談は、近畿地整の管内で、歴史文化の資産を活かした都市づくりをさらに推進したいため、成果が出始めている都市と今後が期待できる都市を、一緒に視察し、国・自治体・専門家によるフランクな意見交換をしたいとの依頼でした。

そこで、成果が出始めている都市は、丹波篠山市と宇治市としました。今後が期待できる都市は、坂井市としました。坂井市を訪問先に選んだ理由は、①江戸時代の木造天守が現存し、それを中心に公園となっている、②北前船の三国湊の街並みの遺産がある、③丸岡と三国で地元市民の活動がある、ことでした。

昨年、坂井市から本委員会への協力依頼があった際に、3年前に視察訪問したご縁もあり、快諾させていただきました。

日本の城下町、湊町、宿場町の多くは約400年前に形成されています。それには理由があり、豊臣秀吉の天下統一、惣無事令、兵農分離の結果、大名の領地が確定し、土豪が家臣化し、お城も山城から平山城・平城に変化して、大名・武士・町人が居住する城下町が形成されるようになったからです。そして、街道と航路が整備され、宿場町、湊町が出来ました。

1615年、徳川幕府は一国一城令を出し、居城以外の城の破却を命じました。この措置は厳しい命令で、全国の多くの城が取り壊されました（北陸では加賀藩は高岡城を取り壊し、小浜藩は敦賀城を再建せず）。また、大名の身分統制を図り、城持ちと陣屋を厳格に区別しました。1645年、福井藩から分離した親藩松岡藩（永平寺町、5万石）でも築城は許可されず、陣屋となっています。福井藩筆頭家老本多家（武生、4万5千石）の府中城は館（御茶屋とも称された）としての存続でした。

1624年、丸岡藩が立藩した結果、城下町の建設が開始されてからまもなく400年となります。丸岡城と丸岡城下町は、一国一城令の後で、築城が認められた城下町として、全国でも非常に価値のある城下町です。

太平洋戦争の空襲で、名古屋城、大垣城、水戸城など旧国宝に指定されていた天守が焼失しました。その結果、木造現存天守は丸岡城を含めて12城のみとなりました。

丸岡城下町は小規模な城下町ですが、全国を見渡しても、特色ある歴史と有数の価値を持っています。現代都市の市民生活と調和しながら、城下町中心部の街並みと趣が維持・向上され、現存建物や遺構が保存・再現され、城下町としての魅力と価値がいっそう増すことに、本計画が寄与することを期待しています。

令和3年8月

丸岡城周辺整備基本計画策定委員長

越澤 明